第11回松江市伝統文化芸術振興審議会（令和8年3月23日開催） 委員からの意見と松江市の回答・見解等

通し番号	委員名	意見主旨	回答・見解・現状・今後の対応策等	担当
1	石橋 淳一 （佐陀神能保存会 会長）	・文化振興課への業務集中が、事業の小規模化を招いているように感じる。市全体の重要政策として、他課の組織横断的な推進を期待していた。 ・市の立場として全方向への平等支援のスタンスは理解した上で、それでも、将来的に「松江市の特徴」として掲げるものをトリアージする必要があると考える。集中支援すべき文化の方向性をグランドデザインし、部署連携して進めてはどうか。 ・専門的な人材を登用し、行政の枠を超えたネットワークの構築を希望する。	・（上定市長）政策部に理事を置いて、横串を通すことを常に意識している。大きなプロジェクトではチームを編成し取り組んでいる。本審議会では文化振興課が前面にあるが、観光・都市整備などの他部署と密に連携することは常に心がけたい。	文化振興課
2	大隅 宏明委員 （NPO法人松江音楽協会 事務局長）	・部活動の地域移行について、スポーツ系の部活動を中心に議論が進んでいると感じており、文化系の活動については議論が遅れている。受け皿をどのようにデザインするのか、議論が必要と考える。 ・学生時代の活動が大人になってからの活動にも大きく影響を与えるため、無対策の場合、施設利用者の減少にも繋がると思われる。（プラバホール利用者など）	・松江市ではまず土日の部活動の地域移行を検討しており、その場合に土日に主に活動する部活動が文化系の部活動では吹奏楽部（一部、合唱部）に限られる。そのため、運動部と比較して話題が少ないように感じられるが、取り組みとしては運動部・文化部いずれも変わらず検討しており、受け皿や担い手についてはいずれも課題。	教育委員会
3	大田 美穂委員 （株式会社アルトクラシー 企画ユニット/ヘイソン・ニャー ヘイ子）	・目標値には届いていないものの、「松江の伝統文化芸術を誇りに思い、心豊かになれるまち」だと考える市民の割合値が向上している事に感心した。 ・若年層への働きかけを課題に早急な対応が必要であると考える。 ・松江市には優れた施設が多くあるため、単体運営・活用だけでなく、施設間の協力を強めた取り組みを行ってはどうか。例えば、同一テーマのイベント・体験を同期間に行うことで、テーマに深みを持たせるなど。	・例えば親子向け「松江の文化力体験」の中で、公民館等のさまざまな施設で企画される文化体験について、実施会場をスタンプラリーのような形で繋いでいく仕組み作りなど考えられる。	文化振興課
4	小野 亮委員 （株式会社ディー・エル・イー 代表取締役社長CEO・CCO 役）	・経済産業省の産業支援メニューの活用提案。新規IP（中でも、漫画・アニメ・ゲーム・実写・音楽）を強力に支援しており、補助額も多い。「アフターばけばけ」のコンテンツ作りに活用してはどうか。 ・「ばけばけ」こそ、いわゆるキャラクターIP。市内のクリエイター・製作会社とものづくりをするようなことがあってもいいと思う。	・（上定市長）文化庁に出向職員が1名おり、そこから情報やお金（補助金）をうまく引き出すということもないことはない。松江市では宿泊税の導入、クラウドファンディングなども実施。民間ベースの資金調達のあり方にもアンテナを張っておきたい。	文化振興課
5	園山 土筆委員 （松江市文化協会 前副会長）	・「誘客・集客・創客」の3つの仕事を同時に回すということを松江市にも実践してほしい。 ・様々な事業が旧松江市に集中している。合併した周辺部へ市民が出かける仕掛けは行政が検討すべき。 ・行政がすべきこと、市民が頑張らないといけないことがあり、工夫をしあう必要がある。 ・「のるーと」は土日も運行してほしい。	・「のるーと」の土日運行については現在予定はない。運転士不足、運行費用の課題があり、地域の方の平日利用を優先して運行している。	交通政策課
6	髙屋 茂男委員 （島根県立八雲立つ風土記の丘 所長）	・こども達のふるさと教育や伝統文化体験の機会は、比較的多くの取り組みがなされているという印象を持つ。一方でその教育を受けたこども達が、10年後に仕事として関わる、伝統芸能に関わるということにどのように繋げるのかが課題と考える。 ・松江の各賑わいどころ（松江城、八重垣神社など）は、点ということでは発展したものの、それを結ぶルート・対流がこれからの課題と考える。無人バスの進展にも期待したい。	・（上定市長）園山委員「のるーと」、松原委員「ラフチャリ」、高屋委員「施設間ネットワーク」等の話にもあるように、2次交通の結節機能については松江の散逸するコンテンツをどのように繋ぐかということに苦慮している。うまく繋げるためには、例えば、「小泉八雲に関連する（スポット等の）繋がり」のような「ストーリー」が重要だと考えている。	観光振興課 交通政策課
7	田中 藤一郎委員 （松江市公民館長会 監事 鹿島公民館長）	・子ども佐陀神能教室、小学校での体験学習を通じ、「体験」ということの重要性を感じている。 ・高齢化により各地区の文化サークル団体の活動が衰退。参加している高齢者も、後継者となる若年層に対して、自分たちの活動は興味を持たれないものと思ってしまっている。 ・公民館として、こどもたちの興味が何なのか、知るよう努めたい。	－	－
8	田中 昌子委員 （一般社団法人島根県建築士会 松江支部副支部長）	・低学年（こどもの頃）に学んだり、すり込まれたものは大人になっても残っているとつくづく思う。体験したことがないことに対しては大人になっても想像を働かせるのも難しいし触れる機会がないままになってしまう。 ・自身の専門分野（建築）において、将来その道に進むかどうかは分からないが、仕事選び・何かしようと思った時に、道標になるよう活動を続けたい。 ・不便さも楽しめるまちづくりも良いと思う。	・（上定市長）「MATSUE WAKU WORK」を開催。キッザニアのような職業体験を市内の中学2年生を対象に、松江市の民間企業60社協力の下、実施した。文化はもちろん、松江の産業にも触れ、実現できることが松江にあると知っていただける機会となった。ふるさと教育の一環ととらえ、さらに力を入れる。	－
9	原田 順子委員 （松江市教育委員）	・こどもたちのための事業が継続されていて良いと感じた。 ・別々の事業なのに内容が重複するようなこともある。限られた予算の中で効率を上げるため、他部署の取り組みを把握し、足りないところに事業を検討してほしい。 ・アンケート「芸術鑑賞をしたことがない」の割合が半数以上という結果が残念だが、何故か聞いてみたいと思った。他の設問についても同様。 ・「ばけばけ」グッズコーナーの設置要望	・主催者としても、同日に類似するイベントの開催は避けたいところであり、可能な限り他のイベントの状況を確認して計画する。 ・今後、実施計画の見直しの際などのアンケートの設問内容に反映したい。	文化振興課 観光振興課
10	松原 慶子委員 （出雲国ジオガイドの会 事務局長）	・観光客からみて、今の松江はオーバーツーリズムではない、ちょうどいい人の流れができている。「ばけばけ」の影響で盛り上がりを見せ、「アフターばけばけ」に繋がっているが、その着地点をどこに置いているのか。なんとか継続し、定着化してほしい。 ・こども達の理科離れを懸念している。ジオパークを通じたクラブ活動のような組織ができないか、また、全国規模のジオ大会へのこどもの参加ができないか。 ・郊外の松江にも目を向けてほしい。	・「アフターばけばけ」単独で定めている着地点はないが、観光戦略プランで掲げた2030年までの目標を早期達成したいと考えている。 ・（上定市長）ジオパークは、2回目の更新審査により認定を受けた事に感謝している。人・自然が残してくれた唯一無二のものをいかに若い人に伝えるか。全国大会のようなところで高校生が発言できる機会にも結びつけられるよう組み立てていきたい。	文化振興課 観光振興課
11	森山 俊男委員 （島根県茶道連盟 事務局長）	・12年前茶道連盟が発足したときから会員が激減（3,800人→2,400人） ・市が取り組む「茶の湯の学校、文化力推進事業」に加え、茶道連盟独自にも文化庁補助事業を活用した茶の湯体験を開催。後継者育成が進まない現状に手を打っている。 ・明々庵付近、移動の困難さ・気軽に入れる飲食店の少なさがあるため、整備することで、他の点（カラコロ工房など）と繋がりが生まれるのではないか。	－	－